

二〇二二年度

国

語

(解答はすべて解答用紙に記入しなさい)

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（問題の都合上、省略した箇所があります。）

ギデンズは、こんなことを言っています。知らないこと、予測不可能なことに囲まれて生活することは、本来ならば大きな不安を私たちにもたらすはずです。事故、病気、失業、そして環境破壊や戦争などによって安心な生活が破壊されてしまう可能性を、私たちは心の中から完全に排除することはできません。こういったリスクに非常に敏感な人は、場合によっては精神疾患を患ってしまうでしょう。そして実際、不安に悩まされている人たちに對して、私たちは理屈で安心を説得することはできないはずです。

住んでいる場所の近くに原発がある人が、事故の可能性に不安を訴えたとしましょう。私たちは、この人に対して合理的に（理を尽くして）安心を説くことはできるでしょうか。仮にあなたが原子力発電の専門家でも、なかなか難しいはずです。むしろ専門知識を伝えることの困難に直面するかもしれません。

いずれにしろ、常に不安に苛まれて^{さいな}いるわけではない「普通の」人たちも、何らかの合理的な根拠があつて安心して^{しんずく}いるわけではないのです。ギデンズは、私たちはそういった不安を物理的に、あるいは心的に遮断^{しやだん}しているに過ぎない、といます。「物理的に遮断」というのは、そういう不安を引き起こしうる情報にできるだけ触れないようにする、ということ^{こと}です。病気や死、あるいは生まれつきの障害などは、いまでも私たちが意図的に影響を及ぼすことが難しい経験^①です。現代ではこれを病院やシセツに隔離すること^{こと}で、少なくとも日常生活ではあまり目にしないようにしています。ギデンズは、これを「X」と呼んでいます。

「心的に遮断」というのは、要するに心の中で特定の情報を遮断している、つまり忘れたり、あるいは鈍感になるということ^{こと}です。ギデンズはこのことを「Y」と呼んでいます。保護^{まも}機能が機能している限り、私たちは常に不安であるという状態ではなくなります。ただ、ふと思ひ出せば不安を掻き立てるような事柄について考えないようにしているだけなので、何かきっかけがあれば保護機能が破れてしまうこともあります。ギデンズは、日常生活を安定したリズムで反復的に送ること、つまり「ルーティン」に従うことが、不安を和らげるといいます。

経験の隔離や保護^{まも}機能は、不安の根本原因を除去しているわけではありません。単に忘れたり遠ざけたりしているだけです。そういう意味では、これらはなんとも「ユルい」^②対応法です。

予測できない不安定な社会において、「殻」に閉じこもらず、変化に向き合う強い姿勢をみせることもときには必要です。起業家精神というのは、そういった姿勢の一つかもしれません。ただ、すべての人にそういった強い心をもつように仕向けることは非

現実的です。他方で、殻に閉じこもり、自分たちの日常生活にしがみつくばかりだと、私たちは意図せざる結果に飲み込まれて、より深刻な事態を引き起こしかねません。そのためギデンズは、ルーティンは心的安定にとつて欠かせないもので、伝統的な行為も無碍に否定してはならない、と考えていました。この意味では、ギデンズははっきりと保守主義的な側面を持つていたのです。しかし他方でギデンズは、人は必要なときにルーティンを逸脱して生活を能動的に再コウチクする必要に駆られる、とも論じています。

ここから、一つ目のアドバースが出てきます。私たちは、あるティド安心④して暮らしていくために、難しいことや不安なことを忘れて生活する必要があります。他方で、ときには反省的に周囲を捉え返し、物事がうまくいかない原因について理解しなければならぬこともあります。かんじんなのはこの二つのバランスをなんとか取っていくことであって、「どちらかだよ」という主張には耳をカラム⑤ける必要がない、ということです。それに、人々は安定した基盤がないと変化に踏み出すことさえできません。

安定と変化は、両立させないといけないのです。

(中略)

「安定と変化のバランス」をとることが重要だということの例を一つとりあげましょう。日本は一九七〇年代以降、出生率の低下に悩まされています。本書の最初の方でも触れた少子化ですね。日本の出生率の低下の根本原因は未婚化です。つまり結婚するタ
イミングが遅れたり、
A そもそも結婚しない人が増えたりした、ということです。日本以外でも少子化に悩まされている
3
国がいくつかありますが、それらの国に共通する特徴が、「家族主義」であることです。

家族主義の国で人々が家族を作らなくなっているというのは、逆説的な現象ですね。どうしてもこんなことが生じているのでしょうか。家族主義とは、社会の中で家族の果たす役割を重視する考え方です。子育てでも介護でも、家族の役割を第一に考えます。イタリアやスペインなどの南欧諸国や、日本や韓国かんこくなどの東アジア社会がこれにあてはまります。これに対して家族主義ではない国、B スウェーデンなどでは、子育てや介護の負担を国全体で分かち合おうとします。つまり、政府が保育や介護などの面で手厚く家族をサポートするわけです。

家族主義の国では、家族の役割が重いですから、気軽に家族を作るわけには行きません。ちゃんと機能する家族を作るために、女性はしっかりと稼ぐ能力のある男性を探さなければなりません。これに対して家族主義ではない国では、家族の負担が軽い分、

もつと気軽に家族を作ることができます。これが、家族主義ではない国のほうが出生率が高くなる理由です。

たしかに、一九七〇年代くらいまでは日本でも「家族主義」でうまく回っていました。そのやり方を変えたくない、そのやり方が一番なんだと考えたがる「保守系」の人たちがいても不思議なことではありません。

いたのは、高齢の親世代の寿命が現在ほど長くなく、またきょうだいがたくさんいたために一人あたりの介護負担が比較的軽かったこと、家族を支える男性稼ぎ手の雇用が安定していたこと、といった条件がそろっていたからです。

これらの条件は、すでに失われてしまいました。環境が変われば、当然昔の環境でうまく行っていたやり方は通用しなくなりま
す。ここはひとつ反省して、新しい方針を立て直さなければなりません。いってみれば、政府が率先して安定的な生活基盤をつ
くって、それによって家族の負担を減らしてやれば、人々は安心して家族を作るようになるわけです。「しっかりとした家族を作
らなければならない、そのためには稼ぎのある人と一緒にしなければならない」と考えているうちは、不安定でリスクのあるこ
の社会で家族を作ることになかなか踏み込めないかもしれません。逆に、家族に頼らなくてもそこそこ安定して暮らしていける社
会であれば、人々は誰かと一緒にすることにそれほど躊躇しないでしょう。

(出典 筒井淳也『社会を知るためには』ちくまプリマー新書による)

問一 〰線①～⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 A～Cに入る言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ それゆえ ウ あるいは エ なぜなら オ しかし

問三 X・Yに当てはまる言葉を、本文中からXは五字で、Yは三字でそれぞれ抜き出しなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ。)

問四 〰線1「こういったリスク」の指す内容を本文中から四十二字で抜き出し、最初と最後の五字をそれぞれ答えなさい。

問五 〰線2「安定と変化は、両立させないといけない」とありますが、安定と変化を両立させるとはどういうことですか。九十五字以内で説明しなさい。

問六 — 線3「それらの国に共通する特徴が、『家族主義』であることです」とありますが、家族主義の国が少子化になる

のはなぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 他のきょうだいが家族を作るから大丈夫だという甘えが、人々の中に生じるから。

イ 雇用が不安定で男性だけでなく女性も働く必要があり、子育てをする余裕がないから。

ウ 社会に出て働こうという女性の意識が高いため、子育てに専念できる人が少なくなるから。

エ 一人の子どもに家族全員が関わり、大切に育てようとする意識が強くなるから。

オ 家族の果たす役割が重視されており、ちゃんと機能する家族を作ろうと慎重になるから。

問七 本文の内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア だれもが起業家の精神にならって、社会の変化に正面から立ち向かっていくべきである。

イ 安心しているように見える人々も、合理的な根拠があつて安心しているわけではない。

ウ ルーティンは保守主義的な考え方に基づいており、変化の激しいこれからの社会には必要ない。

エ 昔の日本は政府が率先してサポートすることによって、稼ぎ手の雇用が安定していた。

オ 日本の出生率の低下は複数の原因が複雑にからみあつて引き起こされており、解決できない。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「シゲ爺」

向かい側で曾祖父が、うん？ と顔を上げた。

「あたし、明日から一時間早起きする」

「ほう。そんなんまぐ早く起き出して、何するだ？」

「あたしも行く」

「え？」

「シゲ爺と一緒に、畑へ行く」

曾祖父母が黙って顔を見合わせる。

「ね、お願い、連れてって。あたしじゃお父さんの半分も役に立たないだろうけど、言われたことはちゃんとやるし、これまでに教わったことも覚えているよ」

「だけど雪ちゃん……」ヨシ江が氣遣わしげに言う。「朝は、勉強の時間だから？」

「そのぶんは、お昼を食べた後にやる。お母さんの宿題も」

「無茶言うでねえだ。しつかり昼寝しとかんと身体がもたねえに」

「そんなことないってば。あたしはほら、まだ若いもん。途中で充電しなくつても、バッテリーは晩までもつよ」
再び、老夫婦が互いの顔を見る。

「まあ、それもそうだなあ」と、茂三が唸る。「おれらみたいなロートルと比べちゃんねえわ」

「ろー、とる？」

「ああ、若えしうは知らねえだか。言ったら、〈ポンコツの年寄り〉みてえな意味だわい」

「え、そんなことないよ！」雪乃は慌てて打ち消した。「お母さんだって言ってたよ。シゲ爺もヨシばあばも、歩く百科事典みたいだって」

三たび、老夫婦が顔を見合わせる。どちらからともなくふきだした。

「なんとま、ありがてえわい。あの英理子さんからそんな、いいふうに言ってもらえてえ」

ヨシ江が唇をすばめ、首をすくめて、可愛らしい顔で笑った。

ふっと目を開けた雪乃は、寝ぼけ眼で枕元の時計を見るなり飛び起きた。

「やばっ！」

目覚ましをセットした時刻を三十分も過ぎている。知らないうちに止めて、またうとうとしてしまったらしい。慌ててパジャマのまま台所へ飛んでいくと、ヨシ江が洗い物をしているところだった。

X

ほんのちよつと声をかけてくれたらすぐ起きたのに、どうして置いていくのか。部屋を覗いた曾祖父母が、へよく眠ってるだわい」〈可哀想だからこのまま寝かせとくだ〉などと苦笑し合う様子が想像されて、地団駄を踏みたくなる。

「どうして起こしてくんなかったの？ 昨日あたし、一緒に行くって言ったのに」

するとヨシ江は、スポンジで茶碗をこすりながら雪乃をちらりと見た。

「起こそうとしただよ、私は。けどあのひとが、ほっとけって言うだから」

「……え？」

「雪乃が自分で、まっとう早起きして手伝うから連れてけって言っただわ。こっちが起こしてやる必要はねえ、起きてこなけりや置いてくまでだ』って」

心臓が硬くなる思いがした。茂三の言うとおりだ。

無言で洗面所へ走ると、超特急で顔を洗い、歯を磨き、部屋へ戻ってシャツとジーンズに着替えた。ぼさぼさの髪をとかしている暇はない。ゴムでひとつにくくる。

土間で長靴を履き、

「行ってきますー！」

駆け出そうとする背中へ、ヨシ江の声がかかった。

「ちょっと待ちない、いってえどこへ行くつもりだいや」

雪乃は、あ、と立ち止まった。そうだ、今日はどの畑で作業しているかを聞いていない。

「そんなにまっくろけえして行かんでも大丈夫、爺だじようふさんは怒っちゃいねえだから」

ヨシ江は笑って言った。へまっくろけえして」とは、慌てて、という意味だ。目の前に、白い布巾ふきんできゅつとくるまれた包みが差し出される。

「ほれ、タラコと梅干しのおにぎり。行ったらまず、座ってお食べ。朝ごはん抜きじゃあ一人前に働けねえだから」

「……わかった。ありがと」

「急いで走ったりしたら、てつくりけえるだから、気をつけてゆつくり行くだよ。雪ちゃんが後からちゃんて行くって、爺さんにはわかってただわい。いつもは出がけになーんも言わねえのに、今日はわざわざ『ブドウ園の隣の畑にいるだから』って言うってただもの」

再びヨシ江に礼を言つて、雪乃は外へ出た。

あたりはもう充分じゆうぶんに明るい。朝焼けの薔薇色ばらいろもすでに薄れ、青みのほうが強くなっている。すっかり春とはいえ、この時間の気温は低くて、息を吸い込むとお腹なかの中までひんやり冷たくなる。

よその家の納屋に明かりが灯ともっている。どこかでトラクターのエンジン音が聞こえる。農家の朝はとつくに始まっているのだ。大きく深呼吸をしてから、雪乃は、やっぱり走りだした。

長靴ががぼがぼと鳴る。まっくろけえしててつくりけえることのないように気をつけながら、舗装②された坂道を駆け上がる。ふだん軽トラックですくい登る坂が、思ったよりずっと急であることに驚く。

息を切らしながらブドウ園の手前を左へ曲がり、砂利道に入つてなおも走ると、畑が見えてきた。整然とのびる畝うねの間に、紺色のヤッケを着て腰をかめる茂三の姿がある。急に立ち止まったせいで足がもつれ、危うく本当にてつくりけえりそうになった。

「シ……」

張りあげかけた声を飲みこむ。

ヨシ江はあんなふうに言ってくれたけれど、ほんとうに茂三は怒っていないだろうか。少なくとも、すぐくあきれているんじゃないだろうか。謝ろうにも、この距離ではどんなふうに切り出せばいいかわからない。

布巾でくるまれたおにぎりをそつと抱え、立ち尽くしたままためらっていると、茂三が立ちあがり、痛む腰を伸ばした拍子^④にこちらに気づいた。

「おう、雪乃。やーつと来たばかり、寝ぼすけめ」

笑顔とともに掛けられた、からかうようなそのひと言で、胸⁴のつかえがすうつと楽になってゆく。手招きされ、雪乃はそばへ行った。

「ごめんなさい、シゲ爺」

「なんで謝るだ」

ロゴの入った帽子のひさしの下で、皺^{しわ}ばんだ目が面白そうに光る。

「だってあたし、あんなえらそうなこと言つといて……」

「それでも、こやつて手伝いに来てくれただに」

「それは、そうだけど……」

「婆^{ばあ}やんに起こされたか？」

「ううん。知らない間に目覚ましを止めちゃったみたいで寝坊したけど、なんとか自分で起きたよ」

起きたとたんに「げえつ」て叫^⑤んじやった、と話すと、茂三はおかしそうに笑った。

「いやいや、それでもてえしたもんだわい。いっつも、婆やんがぶつくさ言ってるだに。『雪ちゃんは、起こしても起こしても起きちゃこねえでおえねえわい』つって。それが、いっぺん目覚まし時計止めて、そんな自分でも起きたつちゅうなら、そりゃあなおさらてえしたことだほー」

「……シゲ爺、怒ってないの？」

「だれえ、なーんで怒るう。起きようと自分で決めて、いつもよりかは早く起きただもの、堂々と胸張ってりゃいいだわい」

雪乃は、頷^{うなず}いた。目標を半分しか達成できなかったのに、半分は達成できた、と言ってくれる曾祖父のことを、改⁵めて大好きだと思った。

（出典 村山由佳『雪のなまえ』徳間書店による）

問一 線①～⑤の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二 線 a・b の語句の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a 気遣わしげに

ア	心配そうに
イ	優しそうに
ウ	残念そうに
エ	不満そうに
オ	嬉しそうに

b 地団駄を踏みたくなる

ア	悲しくなる
イ	嬉しくなる
ウ	不安になる
エ	悔しくなる
オ	楽しくなる

問三 Xには、次の五つの会話文が入ります。会話が成立するように正しい順に並べ替えなさい。ただし、三番目

には選択肢「ア」が入ります。

ア 「おはよ。ねえ、シゲ爺は？」

イ 「うそ、なんで？」

ウ 「さっき出かけてっただわ」

エ 「シゲ爺は？」

オ 「ああ、おはよう」

問四 線1「雪乃は慌てて打ち消した」とありますが、なぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 曾祖父母がこんな自分だめだと落ち込む様子を見て驚いたから。

イ 曾祖父母が機嫌を悪くしないように落ち着かせたいと思ったから。

ウ 曾祖父母にそんなつもりはなかったとすぐに伝えたいと思ったから。

エ 曾祖父母を年寄りだと思っていたのを見透かされたと感じたから。

オ 曾祖父母にどうせ若いだけだと言われたことが悲しかったから。

問五 — 線2「心臓が硬くなる思いがした」とありますが、このときの雪乃の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 曾祖父母に大口をたたいておきながら寝坊してしまった自分にがっかりした。

イ たった一度の失敗で自分を突き放す態度を取った曾祖父を冷淡だと思った。

ウ 寝坊した自分のことを必要以上にからかつている曾祖父の態度にいらいらした。

エ 曾祖母が止めたにもかかわらず畑に向かった曾祖父の行動を不審に思った。

オ 自分の甘さや覚悟のなさを指摘するかのような曾祖父の言葉にぎくりとした。

問六 — 線3「雪乃は、やっぱり走りだした」とありますが、なぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 曾祖父母の反対を説得し、念願の畑仕事によりやく参加できることになったので、待ちきれなくなったから。

イ 慣れない早起きに加えて、早朝の寒さのせいで体が冷え切ってしまったため、急いで温めようと思ったから。

ウ 朝焼けの明かりは感じられるが、早朝でだれも通らない田舎道なので、自分一人で歩くことが怖かったから。

エ ゆっくりでいいと言われたが、農家の朝が始まっていることを自覚し、急いで畑に行こうと思い直したから。

オ 寝坊したショックで放心しており、突然鳴り始めたトラクターのエンジン音を耳にし、驚いてしまったから。

問七 — 線4「胸のつかえがすうっと楽になってゆく」とありますが、このときの雪乃の気持ちを六十五字以内で説明しなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ。)

問八 — 線5「改めて大好きだと思った」とありますが、なぜですか。四十字以内で説明しなさい。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（出題の都合により、一部表記を変えた部分があります。）

和邇部用光^{わにべのもちみつ}といふ楽人^{がくじん}ありけり。¹土佐の御船遊び^{とさのおふなあそ}に下りて、上りけるに、安芸の国^{あき}、なにがしの泊^{とまり}にて、海賊押し寄せたりけ

（用光は武芸の心得がなかったたので）

（殺されてしまうだろう）

（管楽器である箏^{ひちりき}）

（座^ぶって）

り。弓矢^あのゆくへ知らねば、防ぎ戦ふに力なくて、今はうたがひなく殺されなむずと思ひて、箏^{ひちりき}を取り出でて、屋形^{やかた}の上^bにあて

（そこにいる連中どもよ。今はとやかく言うまい。早く何でも取られよ。）

（心にかけていた）

「あの党^{たう}や。今は沙汰^{さた}に及ばず。とくなにもものをも取り給へ。ただし、年ごろ、思ひしめたる箏^{ひちりき}の、小^cてうしといふ曲、吹きて

（お聞かせしよう。）（こんなことがあったと、後々の話の種となされよ。）

（海賊の首領が大声で）

（お前たち）

聞かせ申さむ。さることこそありしかと、のちの物語にもし給へ」といひければ、宗^{むね}との大きな声にて、「主^{ぬし}たち、しばし待ち

²（このように言うことだ。）

給へ。かくいふことなり。もの聞け」といひければ、船を押さへて、おのおのしづまりたるに、用光³、今はかぎりとおぼえければ、

（吹き続けた。）

涙を流して、め⁴でたき音を吹き出でて、吹きすましたりけり。

（折もよかつたのであろうか、）

（あの有名な中国の詩人である白居易が潯陽江の近くで弾いたという琵琶の音色と変わらなかった。）

をりからにや、その調べ、波の上にひびきて、かの潯陽江^{しんやうかう}のほとりに、琵琶^{びは}を聞きし昔語りにことならず。海賊、静まりて、い

ふことなし。

（あなたの船に狙いをつけて、襲ったけれども、）

（他の所へ行ってしまうおう）⁵

よくよく聞きて、曲終^をりて、先の声にて、「君が船に心をかけて、寄せたりつれども、曲の声に涙落ちて、かたさりぬ」とて、漕^こ

ぎ去りぬ。

（『十訓抄』による）

問一 線 a「ゆくへ」・ b「ゐて」・ c「てうし」を現代仮名づかいによる表記に書き改めなさい。

問二 線 1「楽人」・ 4「めでたき音」の文中における意味として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|------------|--|-----------|
| 1 楽人 | | 4 めでたき音 |
| ア 仏像を彫る人 | | ア すばらしい音色 |
| イ 絵を描く人 | | イ 騒がしい音色 |
| ウ 書道を教える人 | | ウ 弱々しい音色 |
| エ 和歌を詠む人 | | エ めずらしい音色 |
| オ 楽器を演奏する人 | | オ もの悲しい音色 |

問三 線 2「かく」の内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 船にあるものは全部渡すので、最後に筆築の曲を仕上げる時間がほしいということ。
イ 用光が果敢に海賊に立ち向かっていったということを、後世に伝えたいということ。
ウ 何でも取ってよいが、筆築の曲を聴いて後々の話の種にしてほしいということ。
エ 命を助けてくれるならば、用光を襲ったことの罪は問わないでおこうということ。
オ 好きなものを取ってよいので、筆築と命だけは奪わないでほしいということ。

問四 線 3「今はかざりとおぼえければ」の口語訳として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 最後まで戦おうと覚悟を決めたので
イ もはやこれまでだと思われたので
ウ 海賊とは二度と会うまいと誓ったので
エ ようやく逃げられると喜んだので
オ この場を乗り切ろうと考えたので

問五 — 線5「漕ぎ去りぬ」とあるが、海賊たちはなぜ漕ぎ去ったのか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、

記号で答えなさい。

- ア 必死で命乞い^ごをしている用光のことを気の毒に思ったから。
- イ 船中に箆^へ以外の金品が見当たらないので興味を失ったから。
- ウ 恐怖をまぎらわそうと懸命^{けんめい}に箆^へを吹く用光を憐れ^{あわれ}んだから。
- エ 用光が吹く箆^への音色に感動して襲う気持ちがなくなったから。
- オ 涙を流しながら立ち向かってくる用光の気迫に押されたから。

一

問一

①

②

③

④

⑤

問二

A

B

C

問三

X

Y

問四

}

問五

問六

問七

二

問一

①

②

③

④

⑤

問二

a

b

問三

↓

↓

ア

↓

↓

問四

問五

問六

問七

問八

三

問一

a

b

c

問二

1

4

問三

問四

問五

↓ここにシールを貼ってください↓

